

転出入者グループインタビュー調査

1. グループインタビューの概要

平成18年度の転出入者アンケートにご回答いただいた方等の中から、グループインタビューにご協力いただける方を募集し、転入者3名のグループを1回、転出者3名のグループを1回、計2回のグループインタビューを実施した。

当日の進行は、関西大学の岡講師にお願いし、参加者との意見交換から本市の課題や魅力を探った。

2. 転入者グループインタビューの結果

実施日時：平成18年11月27日（月）午後1:30～3:00

実施場所：ホテル ホップイン・アミング 1F「ドナウ」の間

参加者：転入市民3名

インタビュアー：岡講師（関西大学）

事務局：尼崎市都市政策課、アルパック

参加者プロフィール

Aさん(女性)：福岡から市内南東部に転入。ご主人の転勤のため関西に。4人家族(就学前)。社宅住まい。夫婦とも関西は初めて。

Bさん(女性)：神奈川から市内東部に転入。ご主人の転勤のため関西に。3人家族(就学前)。夫婦とも関西出身(守口、八幡)。

Cさん(女性)：池田から市内北東部に転入。住環境の良いところを求めて。2人家族。親類が武庫之荘在住。

● お年寄りが気さくで、子どもにやさしいまち

A：現在住んでいる社宅の周りの地域は高齢者が多いが、そのため、おじいちゃん、おばあちゃんが親しみを持って子どもに接してくれている点が良い。

B：子どもが多く、お年寄りもやさしい。

● 悪いイメージの定着

A：関東にいたときも、九州にいたときも尼崎に対して工業都市というイメージが強かった。尼崎に引っ越すと言って、周りの人が心配した。ちょうど列車事故やアスベストの問題でイメージも良

くなかったこともあると思う。しかし、昔のイメージと比べると良くなっていると思う。昔と今を比べてみると、尼崎の良いところをもっと出てくると思う。

C：尼崎といっても広く、地域によってイメージが異なる。阪急沿線かJR沿線で探そうと思っていた。工場地帯が多く、そこでは喘息になるというイメージを持っていた。伊丹市なども範囲に入れて選んだ。

● じゃりんこチエの世界とおしゃれなまち

A：杭瀬は楽しい。まるでじゃりんこチエの世界。

大阪や神戸にいる友達を呼ぶと、杭瀬商店街は喜ぶ。そういった下町的雰囲気のお店と、カルフルやコストコのようなスーパーマーケットと両方共存している点が魅力。

C：武庫之荘におしゃれな店が多い。尼崎の紹介雑誌におしゃれな店も載っていると買ってみたく思うが、下町イメージだけでは買わない。

A：武庫之荘はおしゃれなところと聞いている。バスが便利でどこへでも行けるので行ってみたい。東京でいえば、吉祥寺のようなイメージかも。

● 鉄道と飛行機の利便性

B：大阪や神戸に近く、京都にも行きやすい点が魅力。

A：空港に行くリムジンバスも便利であり、飛行機で帰省しやすいため、地方の人にとって便利。

● 市バスは非常に便利

A：思ったよりも住みやすい。悪いうわさだけが流れている気がする。ノンステップバスは乳幼児連れで助かるし、バス停の数が多いので、一区間が短く、その点も便利。バスの運転手は親切な人が多い。

● 自転車でもどこでも行ける良さとマナーの悪さ

C：今住んでいるJR猪名寺駅周辺は静か。自転車でもどこでも買い物に行けて、食べる場所も多い。物価も安い。自転車に乗って、夫婦で飲みに行ける場所が多い。

A：夜間に無灯火自転車が多いと感じた。自転車の街といわれている割には自転車マナーが悪い。

C：道路は結構きれい。新幹線沿いは走りやすい。

A・B：歩道は自転車が優先され過ぎていて、ベビーカーに乗っていると怖い。

C：路肩に駐車している車が多いので、車道を自転車で走れない。

● 子育てしやすい環境

A：立花や武庫之荘に良い小児科やすこやかプラザがある。市立保育園では親子サロンや園庭開放などもあり、女性にとって楽な街。

B：地域サロンがあるのは良い。

● 安心して遊ばせることのできる公園を

A：今福公園が近所にあり広くて遊ばせたいが、治安がよくないので子どもだけでは遊ばせないようにと近所の人に言われた。

● 自治会との付き合いは希薄

A：社宅の団地だけで自治会を構成している。

B：自治会について紹介も無く、よくわからない。

● 居住地域には「治安」「学校教育」「買い物の利便性」が重要

A：治安と学校教育の良いところが条件。実家が関西にあったら、尼崎も候補になっていると思う。

B：転勤があるので何ともいえない。関西であれば住み慣れた大阪市が良い。近くにスーパーなど買い物しやすい施設が必要。

C：実家がある伊丹が第一候補。マンションであれば最上階か一戸建住宅に住みたい。スーパーが近いところで、静かで治安の良いところがいい。今住んでいる家も、夜に来てみたり、近所の人にも様子を聞いてみた。実際に住んでみないとわからない。しっかりした建物ということも条件であり、今は特優賃に住んでいる。

● その他

住宅選びの方法

B：JR沿線で住宅を探していた。ご主人の会社（尼崎市南部）に自転車かバイクで通えるところという条件だった。会社に出入りする不動産会社が情報を提供してきて、その中から選んだ。

図書館の利用

C：図書館をよく利用する。園田公民館にも図書室があり利用しているが、大人の本を増やしてほしい。

無料イベントの参加

A：小田支所での消防車イベントや尼崎中央市場でのマグロの解体など近くで無料のイベントが多く、よく利用している。無料のイベントがないかどうか市の広報誌をチェックしている。



3. 転出者グループインタビューの結果

実施日時：平成 18 年 12 月 1 日（金）午前 11:00～12:30

実施場所：ホテル ホップイン・アミング 1F「ドナウ」の間

参加者：転出市民 3 名

インタビュアー：岡講師（関西大学）

事務局：尼崎市都市政策課、アルパック

参加者プロフィール

Aさん(女性)：塚口から大阪に転出。

Bさん(男性)：塚口から吹田に転出。

Cさん(女性)：武庫之荘から西宮に転出。

● 転居の理由

学童保育

A：子どもが保育所に通っていた頃までは尼崎にいたが、当時、学童保育に通わせるには条件が良くないため、大阪市に引っ越した。大阪市では小学 6 年生までは、夕方 5 時まで預かってくれる。女性の場合、仕事を持ったら職住近接がよい。

社宅から転出

C：社宅での居住年数条件により、出なければならなかった。新たに土地を探して一戸建住宅を建てた。武庫之荘は地価が高いため、JR 甲子園口駅周辺へ。2 人目の子が小学校入学時に転出。武庫之荘以外なら市外に転出と思い、市内の南部では探さなかった。

● 学校教育問題は大きな課題

A：尼崎では、小中学校で勉強をしていると変に見られる風潮がある。箕面に引っ越した妹は学校教育の理由で転出した。高 1 と中 3 の子がいるが、テストの実施回数など学校の取り組みが全然違うようだ。

A：尼崎に帰ってきたいと思っているが、教育の問題が一番ネック。

C：今の西宮の中学校区にある学校はあまり良くなく、小学生から半分は私学に通わせている地域である。また、西宮では高校を選べない。その意味では西宮も良いとは思えない。

● 居住者が誇りを持つこと

B：住んでいる者にとって、尼崎はそんなに悪い都市ではない。正直言って良いイメージしか浮かばない。

B：子どもの年齢など時期によっていろいろな街の良さがある。どれだけ情報発信できるかが重要。おそらく住んでいる人がまちの悪いイメージを発信をしているのではないか。おもしろおかしく自虐的に言っているのが、悪いイメージを与えてしまっている。

● 市民も行政情報をしっかり捉える

B：吹田まつりは地域のケーブルテレビをうまく使って広報している。吹田市文化会館でも無料のイベントを多く行っており、市民は満足度が高い。情報を市民が読みとることで愛着も生まれる。

● 尼崎の良いところ

A：尼崎は公園も多い。

C：武庫之荘はとても便利でむしろ西宮の甲子園口より条件が良い。

A・B・C：転入者はバスの利便性を挙げているが、市内に住んでいるときにバスはあまり利用しなかった。

A・B・C：転入者が言っているように、三和商店街は面白い。

C：商店街も昭和 30、40 年代のようなレトロなところであれば行ってみようかという気になる。

C：武庫之荘ではコロッケ屋や洋菓子屋をよく利用した。尼崎にもケーキ屋は多い。

● 尼崎の良くないところ

B：尼崎は車と人の量が多く、車いす利用者にとって歩道は歩きづらい。

B：尼崎は大型ごみのゴミ出しが不便。



インタビューからのコメント

転入者グループ、転出者グループへのインタビューを終えて、インタビューの岡講師から、尼崎市の魅力や今後の期待について以下のコメントを頂いた。

住みたい街、尼崎を目指して

あるマンションのトレンド調査によると、関西の「住みたい街ランキング」は、1位芦屋、2位西宮、3位神戸、4位夙川、5位岡本、そしてやっと阪神間を離れ、京都が現れる。高ランキングの街に挟まれて、尼崎はある。残念ながら尼崎はランク外である。では、街の選択のポイントにはどのようなことがあがっているのだろう。「高級感」、「閑静」、「まちなみ」、「おしゃれ」、「洗練」といった言葉がならぶ。ここには、固定化された住みたい街のイメージが見え隠れする。このような言葉の実現を狙って、第二の芦屋、第二の西宮を目指した新しい街の建設が行われているのである。

さて、この度のグループインタビューで、私は「尼崎に住んでみて、どうですか?」と、転出した人3名、転入した人3名に質問した。6名ともが、「持っていたイメージはあまりよくなかったが、住みやすかった」と答えてくれた。もし、「住みやすかった街ランキング」を行うと、上位に入ることは間違いない。理由をたずねると、近所のおばちゃん、バスの運転手さんなど、優しく接してくれる人が多い、子供を育てやすい、駅も多いし、自転車やバスでの移動も楽というように、先の街のランキングでは上がってきていないことばかりがあげられる。では、新しい街をつくろうとするとき、このような住みやすい街はどうすれば実現できるのだろうか? バスで隣り合わせたときに、「あら、かわいい赤ちゃんね」と話しかけてくれる人は、どこから呼んで来ればよいのだろう。

このように、尼崎の街の財産は計画的にはつくることのできない、尼崎が歩んできた歴史と文化が長年かけて培ってきたものでできている。近年、世界で注目されている工業都市の再生にあたっては、「イメージの劇的な転換」や「負の遺産の克服」といったこれまでの歴史を打ち消すような言葉が使われることが多い。私は、これは尼崎流ではないと考えている。工業都市であったことも、現在も工業都市であり続けていることも、なんら尼崎にとってマイナスではなく、工業都市として発展してきたことを、尼崎の現在の住みよさを培った歴史として誇るべきだと考えている。

自転車やバイクで通勤できる、おいしい天麩羅屋のある商店街と高級食材のスーパーマーケットが共存している、畑で野菜を作っている、このような街は現在の都市計画では決してつくることはできない。もちろん、教育、防犯など今後の課題はあるだろうが、「住みよい工都・尼崎」を、誇りを持ってアピールできる、世界でも類をみない新しいまちづくりが進められることを期待している。

岡 絵理子（関西大学）